



旧模範工場桐生撚糸合資会社 事務所棟 (絹撚記念館)

絹撚記念館

場所=巴町二丁目1382-13
見学=午前9時～午後5時
月曜日(祝日の場合は翌日)、
祝日の翌日及び年末年始休館
料金=高校生以上150円、中
学生以下50円※団体割引有り
駐車場=有り
問い合わせ=絹撚記念館(☎
44-2399)

日本遺産とは
地域の歴史的の魅力や
特色を通じて日本の
文化・伝統を語る物
語と、それを構成す
る文化財を「日本遺
産」として文化庁が
認定したものです。

殖産興業を支えた 最先端の撚糸工場

明治時代の日本にとって、
近代産業の育成は、重要な政
策課題で「殖産興業」を旗印
に産業の育成による近代化を
目指していました。当時の政
府は、西欧の先進技術を導入
するため、官営模範工場の設
立や専門技術などを持った外
国人の雇用などを積極的に進
めていました。
生糸の輸出が重要な施策で

あったこの時代、桐生にフラ
ンス式の撚糸機を備えた最先
端の模範工場、桐生撚糸合資
会社を作られました。模範工
場が設立されたのは全国で6
か所のみでした。

この模範工場の事務所棟と
して使われていた建物が現在
の絹撚記念館です。大正6年
に建築され、洋風石造建造物
としては、県内最古級です。

今では事務所棟とそれに
附属する蔵が残るのみです
が、この建物が建設された当
時、桐生撚糸合資会社は、約
1万4315坪の敷地に、の
こぎり屋根の工場が建ち並ぶ
日本最大級の撚糸工場でした。
そこでは、多くの女工が技
術指導や教育を受けながら働
き、日本の近代産業の発展を
支えました。

常設展示や企画展示を 開催



絹撚記念館では、市内で発掘され
た縄文時代晩期の「大型漏斗状透彫
付土製耳飾」(重要文化財)のレプ
リカや海外に輸出された生糸など、
旧石器時代から近代までの桐生の郷
土資料を常設展示しています。また、
年3回程度、企画展を開催し、桐生
の歴史を様々な面から知ることがで
きます。

今月の表紙

6月13日(月)、仕事を終えた桐生
市消防団新里方面団第3分団の団員
が新里野菜集出荷所に集まり、消防ポ
ンプ操法競技大会に向け練習を積ん
でいました。市内の消防団員は地域
の安全のため仕事の合間を縫って訓
練に励み、消防技術を磨いています。

人口と世帯

(5月31日現在)

人口	116,083人 (-114人)
男	55,897人 (-40人)
女	60,186人 (-74人)
世帯	49,941世帯 (+22世帯)

()内は前月比

今月の納税

固定資産税・都市計画税…第2期
国民健康保険税…第1期
8月1日(月)が納期限です

コンビニエンスストアや銀行などの
ペイジー対応ATMからも納付可能で
す。口座振替を利用している人は、預
貯金残高の御確認をお願いします。

広告